

18【街の散策からの気づき発見】

龍 Q 館(庄和排水機場)と首都圏外郭放水路散策

会員 K.T.

春日部市上金崎の江戸川堤防傍に庄和排水機場(龍 Q 館)と首都圏外郭放水路がある。首都圏外郭放水路は大雨の際、春日部市内の中小河川の増水した水を江戸川に逃がし、首都圏への河川氾濫を防止する役割を果たす水路である。大落古利根川は小淵に建設された第5立杭、幸松川は不動院野の16号線近くに第4立杭、中川と倉松川は桶籠の16号線付近に第3立杭、18号水路は金崎の16号線近くに第2立杭、大雨の際、これら立杭から流入する水を調圧水槽(通称、地下神殿)へつなぐのが西金野井の第1立杭で、調整水槽から江戸川へ放水するのが庄和排水機場(通称・龍 Q 館)に設置されている巨大排水ポンプだ。各立杭は地下約50mの地下水路で結ばれ、全長6.3kmの地下の川になっている。この人工の川は、地底の川・「彩龍の川」というらしい。

第5から第2立杭の地下トンネルは、ほぼ国道16号線の地下に造成されている。庄和排水機場(龍 Q 館)の調圧水槽(通称、地下神殿)は地下トンネルから流れてきた水をスムーズに江戸川に流すために地下約22mの作られた長さ177m、幅78m、高さ18mの巨大水槽である。長さ7m、幅2m、重さ500tの柱が59本あり、水槽の天井を支えており、この景観から地下神殿の愛称で呼ばれている。首都圏外郭放水路は平成5年(1993)3月工事着手、平成18年(2006)6月に完成した。4、5年ほど前に地下神殿を見学した。100段ほどの階段を下り、見学後、登ってくる。息が上がったのを覚えている。

この龍 Q 館からの江戸川の堤防は、私の春と秋の散歩コースになっている。龍 Q 館の駐車場に車を止め、上流側と下流側の右岸サイドを2つのコースに分け、イレギュラーながら交互に散歩している。下流は16号の金野井大橋、その下流の東武アーバンパークラインの鉄橋を超えて、庄和上水場あたりまで、片道約3km弱を歩く。上流は龍 Q 館から宝珠花橋の手前ぐらいまでの約3kmほどを歩く。往復6km、このコースは、夏のカンカン照りと冬のからっ風の時期を避ければ、360度の眺望と川の自然を満喫できる。江戸川堤防の散歩は快適なコースで、私は気に入っている。龍 Q 館駐車場のトイレは「清潔・快適・安心・使いやすい」、17時過ぎに鍵がかかり、使えない。龍 Q 館は、いい場所ながら公共交通の便が良くないのは残念だ。

さて、江戸川の説明を国土交通省地方整備局江戸川河川事務所のホームページから引用する。「江戸川は、茨城県五霞町で、千葉県野田市において利根川から分流し、千葉県と埼玉県および東京都の境を南下して東京湾に注ぐ流路延長約55km、流域面積約200Km²の一級河川である。(中略)徳川家康が天正18年(1590)に江戸に入府し、それまで、荒川、渡良瀬川等とともに乱流しながら東京湾に注いでいた利根川を銚子から太平洋に直結する水路の付け替えを実施した。江戸川は文禄3年(1594)に始まる「利根川の東遷」といわれる河川事業の一貫として、利根川から分派し東京湾に注ぐ河川として、寛永12年(1635)から同18年(1641)にかけて、関宿～金杉区間が開削された。この歴史的経緯から、利根川の分派川である江戸川の河川改修は、利根川の治水事業の変遷とともに推進されました。(後略)」と、ある。

余談ながら、「江戸川」の名称の由来が『新編、武蔵風土記稿』に、こう記されている。

「此川関宿ヨリ下ヲ、江戸川ト称ス。コレ常陸上野下総等ヨリ、江戸通船ノ路ナレバ、此名アリト伝」
川に歴史ありだ。文献によると、江戸初期の川幅は約47m、明治中期に100m、後期に250m、昭和中期に400mに引堤工事がされた。龍 Q 館は放水路と防災の他、江戸川の歴史や市の水道水取水口等の水利用、川の生き物、川の自然環境の情報も展示し、川を身近に感じられる施設にしてはどうだろうか、と思う。

